

カワバタモロコの数の変化について

小永吉涼香・濱田果歩・三浦裕以子（兵庫県立三田祥雲館高校）

はじめに

カワバタモロコはコイ科の淡水魚で、兵庫県の絶滅危惧 A ランクに指定されている。このカワバタモロコを絶滅の危機から救うためにはどうしたらよいかを考えるため、キリンビール神戸工場のビオトープ池に放流したカワバタモロコの数の変化を追跡した。

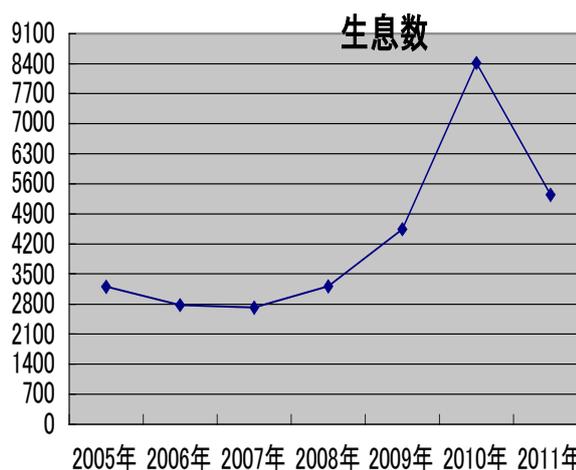
調査方法

標識採取法による個体数推定をおこなった。まずビオトープ池にトラップを 5 個仕掛け 30 分間放置する。トラップを回収して、採れた魚に麻酔をかけ、魚の標準体長を測る（口の先端から尾びれの付け根まで）。魚の尾びれの上を鋭角に切り、麻酔回復後放流する。一週間後に再度、上記の作業を行い標識（鱗切れ）の有無を調べる。



結果

今年のデータ	
N: 知りたい個体の総数	$N=C \cdot R/r$
C: 1回目に印をつけた数	733
R: 2回目にとれた魚の総数	1341
r: 2回目にとれた有印の数	184
推定数	5342



まとめ

生息数の変化グラフから、2010年まで徐々に増加していた個体数は今年（2011年）に急激に減少している。ビオトープの環境要因として測定している水温、溶存酸素、栄養塩、電気伝導率、COD（化学的酸素要求量）の変化を調べてみると2005年から2011年にかけてそれ程大きな変化は認められなかった。ただ水草のキヌフラスコモが2010年から2011年にかけて減少している。キヌフラスコモはカワバタモロコの稚魚が隠れるのに都合の良い場所を提供しているのではないかと考えられた。今後カワバタモロコの数と水草との関係を追及する必要があると考えられる。